

北欧の空は遠く

「お茶を飲みに行ったら、ぜひ見てください。たぶん、入り口にあります。はりねずみ、松ぼっくりで作ってあるんです。」

後輩からメールが届いた。

その店を教えてもらって、何度か足を運んだ。

だが、店内においてあるものなど、気に留めたことはない。

椅子に腰をおろし、やれやれと心の中でつぶやく。

口に出したら、爺くさい。

そう信じている。

これまでなら、ここでタバコを一服なのだが。

俺は、タバコをやめたわけではない。

やめようとは思っていない。

しかし、この店では、吸ったのと同じ気持ちになれる。

やれやれと心の中でつぶやいて、一服していた習慣が、タバコではなく、茶に変わった。

それがなんとなく楽しい。

「ハリネズミがいるんですか」

店主に直接聞いてみる。
探すのは面倒だ。

「はい。」

店主がこたえた。

「みなさん、お好きです。」

かわいがってくださいまして。」

どうせ、女の子が好きなの類のものだろう。

そう思って、見に行った。

後輩のメールのとおり、入り口にあった。

どうも、俺は女の子に興味がないらしい。

いっぺんで気に入ってしまった。

かわいいじゃないか。

「売ってほしい。」

店主にそう頼んだのだが、しっかり断られてしまった。

「ほしいとおっしゃるお客様のために、買いに行きたいんですが。ちょっと遠いんです。」

それに、売っていた店が、今もあるかどうか。」

タバコをやめて、金をためて買いに行こう。

デンマークだという。

北欧か。

いいな。

短い夏の、青い空。

来年の夏の計画は決まりだ。

計画は、三分間で終わった。

店を出た。

出てすぐ左に、タバコの自販機がある。

コインを入れながら、別の考えに変わった。

店に行ったら、その時だけ、俺のはりねずみにすれ
ばいい。

どうせ、俺の部屋に置いても、一年もたてば、迷子
になるだけだ。

空を仰ぐ。

きれいな青空だ。

この町には、まだ空がある。

高層ビルが少ないせいだろう。

北欧の空は、まあ、いいさ。